

北海道サケネットワーク

ニュースレター 14

10. 3. 24

会員の便り

石狩と大雪を守る会

会誌 カムイミンタラ Vol. 29 '09. 4 ~ '10. 3

もくじ 巻頭言 「先を見据えた決断を」 寺島一男
追悼 稲田孝治 氏を偲んで
ひぐま大学巡検報告
ひぐま大学に参加して
今年の活動・報道記事から など

石狩と大雪を守る会から会報カムイミンタラ Vol. 29 が発行されました。

まず、相変わらずではありますが、表紙を始め随所に載せられた美しい写真が目を引きます。どうやら、寺島代表の秀作揃いとお見受けしました。と同時に、掲載されている会員活動の多くの写真中の喜びを満面にした会員の姿からは、活気溢れる会の活発な活動が伺われます。

巻頭言では、「石狩川に野生のサケを創る」をと放されたサケの回帰に問題となっている深川市内のえん堤改善計画について、教育、文化、観光、街づくりなどにも重要な意味を持つサケの回帰を見据えた河川行政当局の改善策を、との論調を掲げています。

さて、本号は、この3月に38才の生涯を閉じられた稲田孝治氏の死を悼む『追悼』の特集号でもあり、道内各地の、学者、文化人などからその人柄や功績を称える追悼の言葉が収録されています。稲田孝治氏は、1922年に旭川に生まれ、シベリアから帰還後、25年間旭川市役所に勤め定年退職していますが、現職時代から環境問題に熱心に取り組み、「環境を守ることは命を守ること」の信念で、多くの環境問題に気迫溢れる熱意を傾けられ、

人柄とともに、北海道の、そして、今日ある旭川の環境保護運動の先達・指導者として、尊敬を集めた方だと言います。

なお、本会誌入所ご希望の方は、直接「石狩と大雪を守る会」にお申し込みください。

(頒布価 ￥1,500)

会員の便り

北海道サーモン協会

カナダとのサケ学習国際交流事業 5月20～28日に

当協会とカナダBC州教育委員会によって、小学校5年～中学2年までの学童を対象に交互に派遣交流を行っています。時期は、学校休暇の関係で日本からの派遣は3月、カナダからは10月で、前回は、昨年3月に日本から16名を派遣し、その10前に延期となり、待ち受けていたカナダ帰りの子ども達をがっかりさせていました。と言いますのも、約10日間に及ぶカナダ滞在は、次に日本派遣予定の子ども達の家でのホームステイで、お互いの再会を待ちこがれていたからです。

それがやっと、5月に来ることになりました。目下、どのようなプログラムにしようかと、ホームステイ受け入れの家族と協議しておりますが、千歳のサケのふるさと館を始め、サケ、環境の学習とともに、日本文化も伝えようと、協会としてもその盛りだくさんに日程（と資金）のやり繰りに、チト頭を痛めております。

○ その後の「札幌市豊平川サケ科学館」問題

前号では、懸念されていた存廃問題が、存続の方向で発展的な運営戦略を模索することになったとお伝えしました。その後、札幌市では有識者会議として市民の意見交換の場を設け、サーモン協会から木村が出席しました。

多用な意見の中で、いずれもが市の誇れる事業であること、これまで続けてきた調査活動に高い評価があることの認識では意見が一致し、今後はますます市民と結びついた活動を拡大・発展すべきとの期待感が話し合われました。また、入館者数の伸び悩みについては、単純な観光施設であれば経済効果で存廃を考えるのは当然であるが、本質的には教育施設であり、その価値を市民に理解して頂き、使用して頂くことが必要。この理解がなければ、再度、存廃の声が出るだろうとの見解でも一致しました。

まだ、市からは正式に存続のプログラムは発表されてはいませんが、どうやら廃止の危機は乗り越えたと言えそうです。
(事務局記)

事務局便り

年度末を迎え、お忙しいことと思いますが、業務のまとめをする時期でもあります。
そんな中から話題がありましたらお送りください。